Race Report

2016　K耐久東海シリーズ　第1戦　2016年5月22日

「頂点を目指せ！」

実力発揮で初優勝！　＃74

堅実な走りで2位　＃210

3位表彰台！　＃45

残念ながらリタイヤ　＃52

こちらも惜しいリタイヤ　＃448

各国の首脳が集まって、世界情勢について討議する場の伊勢志摩から湾を隔てたこの西浦の地にも、Kの頂点を目指す各地のツワモノたちが集結した。
ちなみにサミットにはG7に加えEU議長が参加し、さらには拡大会合としてアジア7か国と5つの国際機関が加わり全部で20の国と機関ということになっている。
一方、2016K耐久東海シリーズ第2戦には、27台（チーム）が参加して、各クラスの頂点を目指す戦いが繰り広げられた。

「ＮＮ－Ｂ」クラス（軽ＮＡのノーマルクラス　ビギナー）

今年から名前変更とともに、初心者を対象とした「ビギナー」クラスが新設された。上級者向けの「エキスパート」クラスに分かれた。マシンの差は無く、レース中のラップタイムがエキスパートクラスの2秒以上で走らなくてはならず、それ以上では章典外となる。
開幕戦のビギナークラスの出走は5台となっている。

■予選

予選トップは#74「アルジェンタートアルト」1’12.609、開幕戦に比べタイムアップを果たしクラストップを獲得。2位は#448「スペアヘッドミニカ」1’14.301、シーズン初参加。3位は#45「インフィニティーアルト」1’14.745、午前中のGT耐久の#405 FXも走らせていたチーム。ダブルヘッダーでリタイヤに終わったFXの借りを返せるか。
4番手は#210「ZEST 遠心ミラ DXL」1’15.861、実はこちらも#21 のスターレットのZESTチーム。ダブルで好成績を狙う。
そして5番手は#52「スピニングガレージアルト」1’19.895、こちらも初参加だが、無事予選通過。

■序盤

序盤からペースを握ったのは#74「アルジェンタートアルト」、トップに立つとじわじわと差を広げ始める。注目は2番手争い#210「ZEST 遠心ミラDXL」あたりを中心に#45「インフィニティーアルト」と#448「スペアヘッドミニカ」が競り合う。
トップを行く#74への挑戦権をかけて、ここは譲れない。
#52「スピニングガレージアルト」もうまく滑り出したようだ。

■中盤

中盤でも#74「アルジェンタートアルト」はきっちり首位キープ。実力的にはNN-Eクラスに入っても遜色ない、あとはアンダータイムには気をつけたい。
2位はどうやら#210「ZEST 遠心ミラDXL」のようだ、もう一波乱を起こしてトップを慌てさせたい。
3位は#52「スピニングガレージアルト」が上がってきた。4位#45「インフィニティーアルト」も表彰台へのチャンスだが、ペナルティが多いのが気になる。
残念なのは#448「スペアヘッドミニカ」、トラブルにより23Lapでリタイヤとなってしまった。

©2008-2016　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■終盤

残り 1 時間の時点で、トップを行くのは#74「アルジェンタートアルト」、2 位の#210「ZEST 遠心ミラ DXL」に 3Lap の差、3 位は#45「インフィニティーアルト」でこちらは 10Lap ほど離されており、上位 3 台はほぼ決まりか。
途中まで順調だった#52「スピニングガレージアルト」だったが、ミッショントラブルから、スローダウン。ピットインそしてリタイヤとなった。

■最終結果

結局チェッカーまでこのポジションのまま。優勝は#74「アルジェンタートアルト」、開幕戦のアンダータイムの失敗を活かし、しっかりと勝利に結びつけた。
2 位#210「ZEST 遠心ミラ DXL」、トップとは 4Lap 差だったが、しっかりと走り切って表彰台をキープ。午前と午後で変則 1-2！
3 位は#45「インフィニティーアルト」だが、序盤にペナルティがあったのはいただけない、もったいないことでもあるので、ドライバーのみならずチーム全体で気をつけたい。しかしながらダブルヘッダーで FX の雪辱なった。

■総評

ビギナークラスの中では#74「アルジェンタートアルト」が、速さ強さともに、一つ図抜けているようで、取りこぼしがなければこのまま走りそう。
#210「ZEST 遠心ミラ DXL」も 20 キロのウエイトを積んでの堅実な走りだが、この先#74 をキャッチアップするには、さらなる速さが求められるか。
いずれにしてもこの 2 チームの争いと思われるが、それを脅かすチームは現れるか。

ビギナークラス

©2008-2016 GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

堂々の連勝！　#10

開幕戦より一つ上げて 2 位　#5

シーズン初**完走**で 3 位表彰台！　#6

旧規格の代表格も分が悪いか　#29

今回は 5 位　#33

「ＮＮ－Ｅ」クラス（軽ＮＡのノーマルクラス　エキスパート）

こちらの「エキスパート」クラスは 6 台が出走。マシンレギュレーション的にはビギナーと変わりなくタイム差は、チームの力となる。ビギナーからステップアップを考えるチームはもちろん、ギャラリーの際はどのあたりに違いがあるかを観察するのも楽しみ方の一つ。

■予選

予選トップは#10「FAST OUT 最速アルト」1’09.810。2 位は#29「BLAST トゥディ」1’09.931、コンマ 1 秒差でつける。3 位は#5「PROJECT K アルト」1’10.302。
4 位は#33「Timely アルト IDI」1’11.953 とここまでがビギナーのトップより上、やはりエキスパートなのです。
5 位は#6「ROCKYRACING アルト」1’13.363、6 位#145「ざーまえビート」1’16.985。
全車決勝のグリッドに向かう。ちなみに 20 キロのウエイトは#10「FAST OUT 最速アルト」だ。

■序盤

スタート直後に他クラスでクラッシュがあり、赤旗となる。そんななか最初のステイントでトップに立ったのは#29「BLAST トゥディ」だったが、すぐさま#10「FAST OUT 最速アルト」がトップを奪い返す。3 番手は#33「Timely アルト IDI」、4 番手#6「ROCKYRACING アルト」、5 番手#5「PROJECT K アルト」、#145「ざーまえビート」はスタートから調子が上がらず苦しい立ち上がり。

■中盤

中盤では#10「FAST OUT 最速アルト」の独り舞台、スイスイと周回を重ね、全体でもトップ 10 に入る快走。それに刺激されてか#5「PROJECT K アルト」と#33「Timely アルト IDI」が 2 番手争いをしながら#10 をマーク。なかなかの好レースを展開。
4 番手は#29「BLAST トゥディ」、ピット回数が一回多い旧規格車はこのあたりが厳しくなってくるか。5 番手走行は#6「ROCKYRACING アルト」。
序盤調子が上がらなかった#145「ざーまえビート」もなんとかペースを掴んだか。

■終盤

終盤で#10「FAST OUT 最速アルト」が 2 位以下に 2Lap の差をつける、安全圏に逃げ込み体制。2 位争いは#5「PROJECT K アルト」と上がってきた#6「ROCKYRACING アルト」でこちらは 1Lap 差。
さらに 1Lap 差で 4 位#29「BLAST トゥディ」、5 位は中盤まで上位を走行していた#33「Timely アルト IDI」がこの位置。
#145「ざーまえビート」もこのままでいけば規定周回数クリアだ。

©2008-2016　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■最終結果

最後まで逃げ切った#10「FAST OUT 最速アルト」が、総合トップ 10 圏内で堂々の勝利、開幕から連勝となった。
2 位は#5「PROJECT K アルト」が競り勝ち、勝利まで 1Lap と詰め寄った。3 位は#6「ROCKYRACING アルト」が、追いすがる 4 位の#29「BLAST トゥディ」を振り切りポディウムに。
5 位#33「Timely アルト IDI」、6 位#145「ざーまえビート」の順で全車完走という結果。

開幕戦はリタイヤ、今回初完走　#145

■総評

さて冒頭に言った、エキスパートクラスの速さの要因の一つに、タイムのばらつきが少ないという点があげられる。総合トップ 10 に入った#10「FAST OUT 最速アルト」だが、レース中の最速タイムは 09 秒台、とりたてて速いというわけではない（もちろん同クラスの中ではトップだが）。それでも全体で見ても上位フィニッシュができるというのは、ドライバーのレベルが揃い、ほぼ同じタイムで走行できることもポイント。
もちろん、これがすべてではないが、ビギナーチームもエキスパートから盗めるものはどんどん盗んでレベルアップを目指してほしい。

エキスパートクラス

©2008-2016　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

ＮＣクラス（軽ＮＡのクローズドクラス）

6 年連続タイトルは向けて#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」が開幕戦を勝利。盤石のスタートを切ったかに思われたが、第 2 戦を目前にマシンにトラブル。急きょ「クロネコ号」に切り替えての参戦。これまでもたびたび使ったマシンだが、ストリートに近いとのこと。ウエイトも加わって苦戦が予想される。
その#25 を倒そうとする、#66「VISCONTI トゥディ」、を中心に 5 台がエントリー。ネコを捕まえることができるか。

いろいろあってもやはり･･･　＃25

■予選

予選トップは、開幕戦に続き#66「VISCONTI トゥディ」1’08.053。開幕戦では惜しくも 2 位と涙を呑んでいるだけに、今回は勝利だけを見据える。2 番手は#225「ぐっちっちトゥディ」1’08.923、開幕戦は 4 位、今回はさらに上を目指す。
3番手は#56「幸愛グループ★ミラジジーノ」1’09.637、開幕戦はトラブルでリタイヤだっただけに今回はなんとか結果を残したい。4番手#91「BRP★KCアルトバンNA」1’10.361、雪辱戦といえばこちらも同じ、開幕戦のクラッシュから立ち直り、リベンジを誓う。
5位に大本命#25「アカミミネコマル2トゥディ」1’11.135、絶対王者がピンチ。マシンのフィーリングが合わないのか、走りにいつものキレがない。どう巻き返すか。

勝利は目前 2 位　＃56

■序盤

スタートでトップに立ったのは#66「VISCONTI トゥディ」、開幕戦では追い詰めながら一歩届かなかったが今回は気合がはいる。
2位は#225「ぐっちっちトゥディ」と#56「幸愛グループ★ミラジジーノ」がつばぜり合い。
4位に#25「アカミミネコマル2トゥディ」、タイムは上がってきたぞ。5位#91「BRP★KCアルトバンNA」という序盤の展開。

復活からポディウムへ　＃91

■中盤

中盤で快走を見せたのは#56「幸愛グループ★ミラジジーノ」、折り返しを堂々のクラストップで通過。2 位は#66「VISCONTI トゥディ」、伏兵の出現にとまどったか。3 位 #91「BRP★KC アルトバン NA」、こちらもなかなか好調だ。
4位#25「アカミミネコマル2トゥディ」、07秒台を記録するなど復調してきたのだが、順位はこの位置、王者の力を見せるのはいつだ。
序盤好調だった#225「ぐっちっちトゥディ」だが、トラブルにより22周を走ったところでリタイヤとなってしまう。

悔しい！！　＃66

いまさら聞いてもですが、筒香選手のファンですか？

©2008-2016　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■終盤

終盤でも首位キープは#56「幸愛グループ★ミラジジーノ」。新規格ピットを活かして、トゥデイ軍団を振り切れるか。
2位も同じ新規格車の#91「BRP★KCアルトバンNA」、新規格車同士でのトップ争い、政権交代が起こるか。
3位に#25「アカミミネコマル2トゥディ」、Tカーながらここまでもってきたがこのままだと届かないか、追い詰められた絶対王者。
4位#66「VISCONTIトゥディ」、優勝のチャンスだったがスピンからコースアウトで大きく順位を下げてしまった。

残念ながら完走ならず　#225

■最終結果

もはやどこが勝ってもおかしくないこのレースだったが、終盤に底力を発揮したのは#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」！最終スティントにトップに立つと、ファステストラップを記録する集中力で、今季 2 勝目のチェッカー。
#56「幸愛グループ★ミラジジーノ」は惜しい 2 位、自己最高位ながら悔しい。
3 位は開幕戦のクラッシュから復活の表彰台#91「BRP★KC アルトバン NA」。4 位はこちらも悔しい#66「VISCONTI トゥディ」という結果。

■総評

ドライバーのコメントは「運・たなぼたです」とのことだが、絶対王者の集中力が呼び込んだ勝利ともいえる。
ただし、すぐ後ろにはミラジーノ、アルトバンがその差を詰めてきており政権交代が近いことを予感させる。絶対王政か新規格革命か、サミットの勢力図に変化の兆しが見えた第 2 戦。

©2008-2016　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

このままタイトル奪還に邁進　＃38

ＮＯクラス（軽ＮＡのオープンクラス）

開幕戦で”指定席”に帰ってきた#38「デモリッションエグゼトゥディ」が、連勝を狙う。このままチャンピオンシートのリザーブといけるのか。

■予選

予選トップは、#14「小山輪業トゥディ」1’06.362 今季初参加で予選首位。2 位は#38「デモリッションエグゼトゥディ」が 1’06.501、余裕の 2 番手発進か。3 番手#34「JK ガチャピントゥディ」1’07.486、そして開幕戦の NC クラスから NO クラスに変更しての参加の#60「明智自動車スペシャルトゥディ」が 1’10.943 という予選結果。

今季最高位を獲得　＃34

■序盤

スタート直後の 5Lap、予選から好調だった#14「小山輪業トゥディ」がクラッシュ、そのままリタイヤ。レースは赤旗となる。
そのあとトップに立ったのは、#38「デモリッションエグゼトゥディ」。2位は#34「JKガチャピントゥディ」、少し下がったところに#60「明智自動車スペシャルトゥディ」、この3台でのレースとなる。

■中盤

トップをいく#38「デモリッションエグゼトゥディ」は全体のトップをうかがう勢い。2 位以下には2Lap ほどのギャップをつけている。
2位は#34「JKガチャピントゥディ」、そこからさらに5Lapうしろに#60「明智自動車スペシャルトゥディ」が続き各車は単独走行。
こういう場合は集中力が途切れがちになるので、より一層気を付けてほしいところだ。

開幕戦の NC から NO クラスへ　＃60

■終盤

レースは残り 1 時間、ピットストップの間に#34「JK ガチャピントゥディ」が首位に立つが、すぐさま#38「デモリッションエグゼトゥディ」がトップを奪い返す。
#60「明智自動車スペシャルトゥディ」は首位からは離されてはいるが、表彰台圏内なのでしっかりと走り切りたいところだ。

予選はクラストップだったが　＃14

■最終結果

結局#38「デモリッションエグゼトゥディ」は総合トップでチェッカーを受けた。これで開幕 2 連勝、シリーズタイトル奪還に向けて願ってもないスタートを切った。
2 位は 3Lap 差で#34「JK ガチャピントゥディ」が入った。開幕戦は無得点だっただけに、嬉しい今季初表彰台。
3 位は#60「明智自動車スペシャルトゥディ」、途中ピットロード速度違反がありペナルティを受ける場面もあったが、見事完走で 3 位表彰台を獲得。

©2008-2016　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■総評

序盤に大きなクラッシュがあり、赤旗が出るレース展開だったが、そんななかでも#38「デモリッションエグゼトゥディ」が地力を発揮して連勝、ここまでフルマーク。

#34「JK ガチャピントゥディ」は開幕戦義務ピット不足の裁定で無得点だっただけに、ここからが巻き返しのシーズンスタート。

勝利もオイルも 2 連勝！！　まさに盤石

©2008-2016　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

このクラスでも開幕連勝！　＃330

初優勝はならず、だが見せ場はつくった　＃28

なんとかポディウムを確保　＃93

こちらもなかなか侮れないぞ　＃95

ＴＣクラス（軽過給機のクローズド）

昨年初タイトルとなった#330「DIXCEL コンパーノミラ」、波に乗って開幕戦も勝利で飾り、王座防衛に最高の滑り出し。それに対するのはタイトル奪還に燃える#93「藤枝マリンダイビングアルト」と初優勝を狙う#28「BLAST ヴィヴィオ」、同じく初優勝を狙う#95「KHK　KEI」、唯一の FR 遣い#112「白須賀会カプチーノ」と開幕戦と同じく個性派5チームが揃った。

■予選

予選トップは#28「BLAST ヴィヴィオ」1’06.142、これで2戦連続トップ、速さは本物侮れないぞ。2位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」1’07.561、開幕戦は追い込み及ばずの2位だった、今回はぜひとも勝ちたい。
3位は#330「DIXCEL コンパーノミラ」1’08.352、このチームの強さは、予選よりも決勝での伸びしろ。その意味ではすでに勝ちパターンに入っているのか。
4位#112「白須賀会カプチーノ」1’09.765、孤軍奮闘のカプチーノ、全国3000万人のカプチーノファン（当社予想）の声援を受ける。
5位は#95「KHK　KEI」1’09.778、こちらも個性派マシン。それも前期しかない希少3ドア！

■序盤

序盤から#28「BLAST ヴィヴィオ」、#93「藤枝マリンダイビングアルト」、#330「DIXCEL コンパーノミラ」が三つ巴のバトルを展開。
この3チーム、どこが勝ってもおかしくないが、経験で#330 と#93 が有利か、#28 は速さで、トップ 2 チームを打ち破れるか。
2 番手グループも接戦、#112「白須賀会カプチーノ」と#95「KHK　KEI」、ポテンシャル的にも接近したこちらの争いも見ものだ。

■中盤

中盤でのバトルの構図に大きな変化はない、ピットストップの間に#112「白須賀会カプチーノ」と#95「KHK　KEI」来ることもあるが、基本的には#330「DIXCEL コンパーノミラ」がレースをコントロール。それを追うのが、#28「BLAST ヴィヴィオ」、といったところだ。
中盤で目に付いたのが#330 と#93 のペナルティ。ともにピットロード速度違反だが、#93 は 2 回、うち一回は実行遅れで 1 周減算の裁定。

■終盤

ゴールまで残り一時間の時点で、トップを行くのは#28「BLAST ヴィヴィオ」78Lap、初優勝も見えてきたか。2 位は 1Lap 差で#330「DIXCEL コンパーノミラ」、昨年のチャンピオンがプレッシャーをかける。
3 位は#95「KHK　KEI」も 2 位と同一周回で健闘、こちらもチャンスはあるか。4 位は、#112「白須賀会カプチーノ」トップからは 3 周回、4 回ピットが厳しいか。5 位はまさかの下位に沈んでいる#93「藤枝マリンダイビングアルト」、トップからは 6 周回、どこまで挽回できるか実力者の力の見せ所。

©2008-2016　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■最終結果

実力伯仲の混戦レースを見事制したのは、#330「DIXCEL コンパーノミラ」、開幕 2 連勝。2 位は#28「BLAST ヴィヴィオ」、初優勝を狙ったが、最終スティントで逆転を許し惜しくも 2 位。しかし自己最高位をマーク。

3 位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」が滑り込み表彰台、途中ペナルティなどもあって苦しい展開だったがクラス最速タイムを出しての猛追で 3 位表彰台をキープ。

4 位は惜しかった#95「KHK　KEI」、3 位とは同一周回で 17 秒差だった。

5 位は#112「白須賀会カプチーノ」こちらも表彰台までは 1Lap という僅差の戦いだった。

新舗装部分は FR にはどう見えたか　#112

■総評

#330 からは王者の風格が感じられてきており、このまま安定政権で走りそうだ。一方惜しかったのは#28「BLAST ヴィヴィオ」、クラスチェンジから 2 戦で、ターボクラスの速さにも慣れたこともあり、優勝は時間の問題か。

Kei もやはり注目、こちらは少々レアな 3 ドア車だが、Sport や Works といったモデルならタマ数も豊富化か、いまもっとも個性的なクラスはこの TC かもしれない。

初優勝を狙ったが・・・

©2008-2016　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

シーズン初勝利！　#23

ミスが響いたか　#32

#23 と#32 の対決を制したのは#23

ＴＯクラス（軽過給機のオープンクラス）

他のレーススケジュールなどとの兼ね合いで、昨年のチャンピオン#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」はスポット参戦となっており、今回は不参加。
となればチャンスは#32「爆走あばれ馬ミニカ」、#23「Jatsun アルト」に。今回はこの 2 台のみの参加だが、その分どちらも譲れない戦いになるはずだ。

■予選

今回もポールは#23「Jatsun アルト」が 1’04.915 で獲得。開幕戦はポールからスタートしたがマシン不調でリタイヤとなっているだけに、今回はなんとしてもチェッカーまで走り切りたい。
#32「爆走あばれ馬ミニカ」は 1’05.659 でその横にぴったりとつける。台数は少なくともやはり予選からアツい！

■序盤

序盤からは 2 台が競り合うが、じわじわと#23「Jatsun アルト」が引き離す。#32「爆走あばれ馬ミニカ」は付いていきたい。

■中盤

中盤ではピットストップの間に一時#32「爆走あばれ馬ミニカ」が**トップに**名前を刻むが#23「Jatsun アルト」がすぐに**それを**奪い返す。
痛いことに#32 あばれ馬はピットロード速度違反ペナルティを、連続して犯してしまい、**それ**により#23Jatsun がかなり有利に。

■終盤

なんとか追い込みたい終盤だったが、#23「Jatsun アルト」はしっかりとレースをコントロール。#32「爆走あばれ馬ミニカ」は焦ったか、本日 3 回目のピットロード速度違反。

■最終結果

開幕戦の再現を狙った 32「爆走あばれ馬ミニカ」だったが、3 回の違反も重なり追いつけず、#23「Jatsun アルト」が見事今季初勝利。

■総評

やはり 3 回のペナルティストップはいただけなかった。リズムが狂うというか波に乗れない、野球でいえば攻守がチグハグといった感じだろうか。
チャンピオン経験者であってもこういうこともあるが、やはりここはミスを少なくする、上の例でいえば守りからリズムを作っていくというのが大切であると思われる。

もちろん勝った#23「Jatsun アルト」は、ミスがなかった。そして前回のリタイヤを振り払う完勝で、チャンピオン争いに名乗りを上げるか。
そのための速さというファクターはトップなのだから。

©2008-2016　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.